



二〇二二年秋に実行委員会を立ち上げて二年、実行委員を引き受けていただいた地域の区長さんや民生委員さん、そしてPTA執行部の皆さんとともに本校創立一五〇周年記念事業を進めてまいりました。式典は、五十年前の一〇〇周年記念式典を参考に計画してありました。プログラムのいささか固い印象がありました。失礼ながら中高年のあいさつが五人も続いた日には、小学生にとっては気の遠くなるような状況であろうと、自分たちで計画したにもかかわらず子どもたちを心配して見ておりました。まさにその時、司会進行をしていただきましたタレントとしてご活躍中の加納麻衣さん（平成七年度本校卒業生）の

「五人のおじさんたちのあいさつはキツかもんね。一回立って伸びをしましょう！」

との言葉に皆救われた気がしました。ところが、僭越ながら申し上げますと、ご来賓のお三方のごあいさつは、いずれも子どもたちへのメッセージ性が強く、また、興味深いエピソードがあつて、「おじさんの固いあいさつ」ではありませんでした。ご配慮いただきありがとうございます。その後は、記念品の贈呈や表彰があり、児童代表の吉村和隆さん、記念タオルグッドデザイン賞の家田紗英さん、衛藤季咲さんは、いずれも立派な態度でした。

式典の最後は、企画委員会の本田玲奈さんが立派なあいさつで締められました。また、閉式前の校歌では、六年生の元気で伸びやかな歌声が体育館に響きました。歴代の校長先生方や卒業生の皆さんはそれを聞いて感慨もひとしおだったでしょう。

式典のメインイベントは、渡邊タイさんの講演でした。タイさんを幼い頃から知っておられる地域の方々はともかく、面識のない私にとっては日本一の女性剣士です。どんなスパーウーマンかと思っておりましたが、いい意味で期待を裏切られました。気さくで謙虚、明るいお人柄が魅力的な方でした。お話も成功談だけではなく、その裏での苦悩や挫折が中心に語られ、とても人間味あふれる興味深いお話とても心に響きました。

さて、午後は西南小祭りでした。祭りはPTA主催でしたが、式典と同日開催なので実行委員会のお力添えもいただきました。昨年に引き続き、祭り委員会による数々のブースやカフェ、バザーなどが催されました。また、十台程度のキッチンカーが来校し、賑わいをさらに盛り上げました。雨の心配もありましたが、お天気がもって本当によかったです。大勢の保護者や地域の方々手に手に、楽しい食糧に交じって、楽しんでる子どもたちの姿がありました。ちなみに、私はある事情により、校長室に一人で籠もっていたので、キッチンカーグルメを味わっていません。

体育館の催しでは、まず須屋神楽が演じられ、四、六年生有志がそれぞれ優雅に舞いました。進行も自分たちで行い、意欲にあふれていました。皆にぜひ見て欲しいという気持ちで伝わってくるすばらしい演舞でした。須屋神楽の次は、「おじねんせい」こと本校保護者の大久保稔さん率いる合志吹奏楽団「響」（ひびき）の演奏でした。馴染みのある楽曲の迫力ある演奏はもろろんのこと、指揮者体験や楽器紹介などもあつて、子どもたちをはじめ大勢の観衆を楽しませていただきました。大変ありがとうございました。ちなみに、私はある事情により、金色の着物を着て、この模様を別所から覗いておりましたので楽しんでおりました。

こうして、多くの方々のご協力、ご尽力、ご来校のおかげさまをもちまして、本校創立一五〇周年記念式典及び西南小祭りは無事開催でき、盛況を博す結果となりました。誠にありがとうございました。日頃から西南小を支えてくださる皆さまのお力を、改めて感じたところです。この「おかげさま」を忘れることなく、二〇〇周年を目指して今後も教育活動に鋭意取り組んでまいります！

